

日本ヘーゲル学会 第37回 研究大会

会場 大阪大学会館・講堂（豊中キャンパス）

◆シンポジウム「ヘーゲルとジジエク」（20日）
（野尻英一・高橋一行・原和之・飯泉佑介・
高橋若木）

◆特別講演：山内廣隆「哲学と戦争」（21日）

◆合評会：久富峻介『ドイツ古典哲学
と「学」の精神史：カントから
ヘーゲルへ』（21日）

21世紀は、
ヘーゲルの世紀となるだろう

ヘーゲルとジジエク



その可能性 の中心

2026

6.20_土ー21_日

参加申込 | 5月より申し込み開始！
学会ホームページをご覧ください。

詳細・最新情報（日本ヘーゲル学会ホームページ）

<https://hegel.jp>



シンポジウム「ヘーゲルとジジエク」は JSPS 科研費 23K25270 による研究成果の一部です。
（基盤研究 B「スラヴォイ・ジジエク思想基盤の解明：ヘーゲル、ラカン解釈を中心に」）

日本ヘーゲル学会第37回研究大会

シンポジウム「ヘーゲルとジジエク」

日時

2026年6月20日【土】

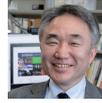
会場

大阪大学会館・講堂（豊中キャンパス）

タイムスケジュール（予定）

- ・オープニング・リマーク（野尻英一）10分
- ・発表1（高橋一行）30分
- ・発表2（飯泉佑介）30分
- ・発表3（原和之）30分
- ・休憩15分
- ・特定質問（高橋若木）15分
- ・特定質問へのパネリストからの応答20分
- ・フロアからの質疑応答30分

登壇者



野尻 英一（大阪大学）



高橋 一行（明治大学）



飯泉 佑介（福岡大学）



原 和之（東京大学）



高橋 若木（大正大学）

Concept

本シンポジウムでは、スラヴォイ・ジジエクとヘーゲルとの関係を考察する。ジジエクは九〇年代以降、精力的な著述によって世界的に著名となったスロベニア出身の哲学者である。その思想の特徴は、ヘーゲル哲学とラカン派精神分析理論の組み合わせにある。ジジエクはヘーゲル主義者を名乗り、ヘーゲルにのっつた「唯物論的弁証法」を唱え、「キリスト教的無神論」を標榜する。フーコーがドゥルーズについて述べた言葉を置き換え、「いつの日か世紀はヘーゲルのものとなるだろう」と宣言し、二一世紀はヘーゲルの時代とまで主張する。ラディカル・ヘーゲリアンとも言うべき、ヘーゲルの擁護ぶりである。だがジジエクのヘーゲル理解は、「正しい」のだろうか。一方でジジエクによれば、ヘーゲルとラカンは「同じこと」を言っているのだという。従来、思想史的な系譜の理解において、またポストモダン的な思想地図に照らした位置づけにおいて、ヘーゲルとラカンとはジジエクの主張するほど重ね合わせて理解されてこなかった。ヘーゲルとラカンはどのように同じでどのように異なるのか。まずヘーゲル研究者が確かめなくてはならないのは、ジジエクにおけるヘーゲル理解の妥当性だろう。否定性、無限性、無限判断、概念の自己運動、自己無化する仲保者、表象の克服、こうしたヘーゲル哲学に固有の概念／理論をジジエクは、精神分析の概念／理論と重ね合わせ、映画など豊富な文化的素材を用いて解釈する。叙述は体系だっておらず、繰り返しが多いとも言われるが、注意深く見ればヘーゲルのテキストの扱いにも経時変化が見られる。ヘーゲルとラカンの重ね合わせは、都合良く重なるところだけ取り出しているかもしれないから、検証にはヘーゲル研究者とラカン研究者が協力し合う必要も出てくる。本シンポジウムでは、科研費プロジェクトにおいて進みつつあるヘーゲル研究者とラカン研究者による共同研究の成果もふまえ、「ジジエクのヘーゲル理解とその可能性の中心」に切り込む。ジジエクにおけるヘーゲル像を明らかにするとともに、ジジエクを通してヘーゲルの可能性に迫る機会としたい。